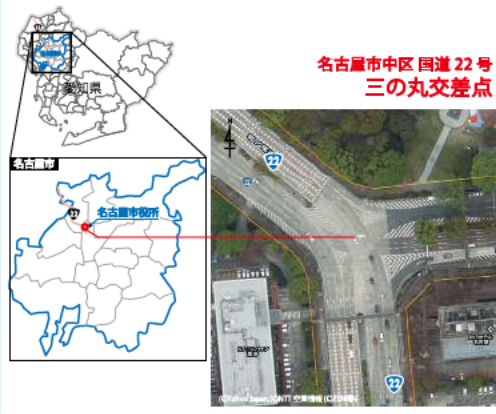




ドライビングシミュレータを用いた大規模交差点の自転車通行空間の整備計画検討

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ
ORICONSU

位置図



名古屋市中区 国道22号
三の丸交差点

調査概要

○目的：中部地方整備局名古屋国道事務所において、国道22号の大規模交差点の自転車通行空間を整備検討するにあたり、ドライビングシミュレーター（以下DS）を用いて、安全で快適な自転車の横断方法の最適案と、逆走による横断防止のための最適な対策案を選定する。

○日時：平成29年2月22日（水）・23日（木）※徳島大学で実施

○被験者：調査対象区間である三の丸交差点を、自転車または自動車で行った経験がある10名。
※調査の実施にあたり、徳島大学山中英生教授のご協力をいただいた。

評価方法

	評価方法	内容
交差点横断方法	走行後の被験者へのアンケート調査（定性的評価）	・安全性の評価、走行性の評価（5段階評価）
	走行実態（定量的評価）	・望ましい整備形態 ・自転車、自動車の走行速度
逆走防止対策方法	走行後の被験者へのアンケート調査（定性的評価）	・分かりやすさの評価（5段階評価）

調査状況

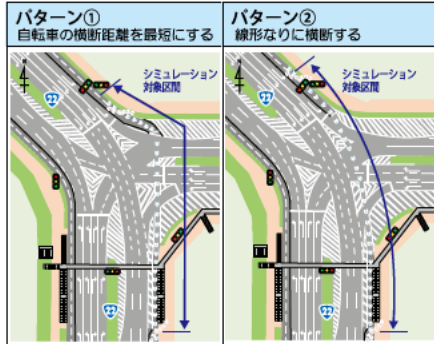


◆交差点横断方法◆

■調査内容

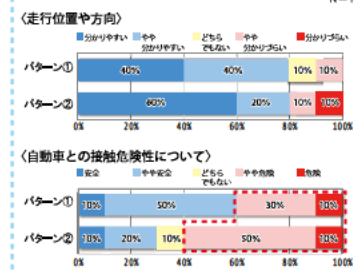
○横断距離や線形の異なる2パターンをDSにて走行。

○自転車目線及び自動車目線で1パターンごとに3回走行。ただし、自転車走行時は、3回のうち1回は対面自転車通行有とする。

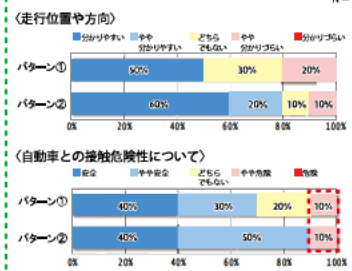


■調査結果

自転車目線

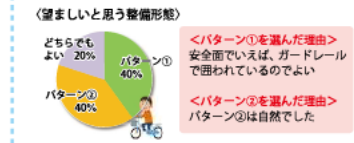


自動車目線



〈「危険」や「やや危険」と回答した主な理由〉
横を走行している車両が接近してくるかもしれないという不安がある。

〈「危険」や「やや危険」と回答した主な理由〉
ガードレールが少ないので、自動車が行き出してきたとき、危なく感じる。



【参考】



【まとめ】

望ましい整備形態は、どちらのパターンも同率回答となったが、安全性の観点からみると、パターン①の方が安全性が高い結果になった。

自動車目線

望ましい整備形態は、パターン①の方が若干高い割合となったが、安全性の観点からみると、両パターンで大きな差が見られない。

◆逆走防止対策方法◆

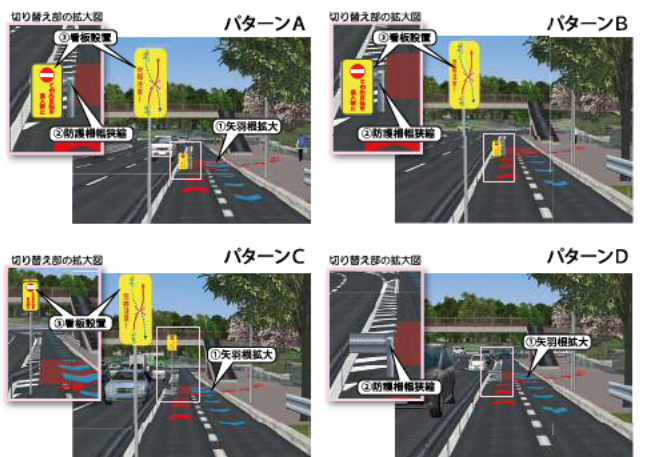
■調査内容

○以下の4パターンから評価。

○自転車のみの評価とし、各パターン1回(計4回)をDSにて走行。

対策	パターンA	パターンB	パターンC	パターンD
①矢羽根拡大 南進方向矢羽根を大きく表示	○	×	○	○
②防護幅狭縮 切り替え部の防護幅の間隔を狭める	○	○	×	○
③看板設置	○	○	○	×

各パターン



■調査結果

各パターンの分かりやすさ



【まとめ】

パターンAのように3つの対策を施すよりも、パターンBのように「対策②・③」を施すことで十分に逆走防止が利用者に伝わる。

